

安芸高田市学校規模適正化委員会 意見集約
(第1回～第3回及び視察・小規模学級に関して)

資料

2. 報告 1. 追加資料 (1)

○ 教育効果に関する意見

「委員会での意見」 良かったと感じた点(意見)	「委員会での意見」 課題に感じた点(意見)
	○ 子どもにとって、2クラスか3クラスあったら楽しいだろうと思う。
	○ 子どもの気持ちで言えば、友達は多い方がよいと思う。
	読書でも、文学でもよいし、スポーツでも、音楽でもよい。特色あるものをうえつけていったらよいと思うが小規模では選択の機会が少なくなる。
	○ 切磋琢磨できる環境は、先生方の努力があって、はじめてよいと思える環境ができています。
	○ 教師も子供も他を知らないで、自分のやっていることに満足する。(もう少し努力すればと思えない環境)
	○ 複式学級ではどうしても考える時間が少なくなっている気がした。
	専門の先生の下、指導が行われることで、その教科の楽しさを ○ 知った先生から教わることが子どもにとって良いことであると考えられる。

「視察での意見」 良かったと感じた点(意見)	「視察での意見」 課題に感じた点(意見)
	○ 小規模校では、家族のような感じで学校としての緊張感が薄れる。
○ 児童の数が少ないことにより、また同じクラスでも上級学年の児童は手本となることから、上の学年が下の学年を指導する力は育まれる。(給食・掃除当番など)	○ クラスの雰囲気も、少人数であるため、静かな場合、やや賑やかな場合などがすぐに変化しやすい傾向もある。
○ 先生の目が届くことによりひとり一人の学習に対応することができ効果は高い	○ 特定の集団が形成され、排除される児童の受け皿がない。
○ 自学・自習の力が伸びる	○ 複式学級の場合、支援が必要な児童がいたり、学習リーダーが育たない場合には学級運営が相当困難になる。
	○ 複式学級では、他の授業内容が気になることが考えられ、先生、子どもの双方にとって難しい授業であると感じた。
	○ 複式学級ではどうしても授業の進捗は遅れる傾向にある。通常授業で不足する時間は補習授業により調整している。
	○ 複数の学級があれば、習熟度別に分かれて授業することも可能であり、効果を発揮しやすい。

○ 社会性(生活面)に関する意見

「委員会での意見」 良かったと感じた点(意見)	「委員会での意見」 課題に感じた点(意見)
	○ 人との関わりが多いことは重要であり、子どもたちには一定の学級規模が必要と感じた。
	○ 小学生であったからこそ体験できたコミュニケーションの機会が少く、社会性が不足し、寂しい気がする。
	人格の形成、心の発達はいろいろな人と関わっていくことが必要であり、班や友達での関わりが大切だと思う。
	○ (1、2年生では教師が主導する他律的な学校生活となるが、3、4年生では仲間が生まれ、5、6年生では気の合う友達とのつきあいを重視する自立的な人格が形成されると思うので。)
○ 色々な年代と関わった子どもの方が、生きる力が強くなるのではと思う。 学校規模と中一ギャップに関連はないと思う。	小規模学校だと不登校児童が高いように思う。
○ 地域の誇りをもった子供に育つ。 ふるさとを大切にできる子どもに育つ。	○ (小さいギャップを経験していないことで中一ギャップが出てしまうと思う)
○ 地域とのふれあいや高齢者との手紙のやりとりなど地域との交流機会が多くあり、人間形成への効果は高いと思う。	
	○ 大きい規模の高校に入ると、うまくいかない子どもが多かった。(自分が通用しないという空気を味わい、小さくなっていくと思う)

○ 社会性(生活面)に関する意見

「視察での意見」 良かったと感じた点(意見)	「視察での意見」 課題に感じた点(意見)
	学校としては一人学びの時間が多くなり、進学し大きな集団に入っ ○ た場合小学校で学んだ力が十分に発揮できるか心配である。(全 校生徒の前で発表の機会を持つなど工夫はしている)
	○ 大勢の中で緊張することが少ないことが気になりである。

○ 健康体力に関する意見

「委員会での意見」 良かったと感じた点(意見)	「委員会での意見」 課題に感じた点(意見)
小規模校では地域と連携した学校づくりをやっていけば、特色の ○ ある学校ができる (スポーツ・文化・体力等、地域と取り組んでいける)	小規模校であっても学校と地域両輪で推進すれば効果は高いも ○ のとなるが、地域の力量が問われるため、全市的に同一の取り組 みができるか不安である。
※ 身体的発達と、学校規模にはあまり関係はないと思う。	
	身体的な発達についても集団スポーツの面で規模が関わる点が ○ あると考える。チームスポーツができるかできないかということは 集団行動、人格の形成にも関わることだと思う。

○ 学校運営に関する意見

「委員会での意見」 良かったと感じた点(意見)	「委員会での意見」 課題に感じた点(意見)
○ 学校では子どもたちの把握が容易で、きめ細やかな教育ができ る。	
○ 教師が子どもたちひとり一人と深くかかわることができる。	○ 小さい学校に来ていただく先生は特に指導能力の高い教職員が 必要で、先生は大変と思う。
	複式学級では教える側も児童も大変だということを実感した。もち ○ ろん教え方もあるが、教員の習熟度も関係してくると思う。 「現状としては、複式学級の熟練指導者は少なくなってきた」
	○ 男女比の偏りが大きく、当該する子供が可愛そうだと率直に思う。
○ 地元であれば、自転車通学ができ、クラブ活動など自由度が広が る。	
○ 安全面において、顔が見えることによって地域の見守り意識が高 まる。	
「視察での意見」 良かったと感じた点(意見)	「視察での意見」 課題に感じた点(意見)
○ 子どもたちは地元を支えられることで様々な体験をすることができ る	先生1人当たりの負担も大きく、また他校より多くの授業を担当しな ○ ければならないことは決して望ましいことではない。(授業資料など の物理的な負担・通常の習熟と違った工夫に対する能力的な負担 等)
子供の通学は6kmを超える児童もいるが、地域に見守隊があり安 ○ 全面には寄与いただいている。ただ雨の場合などは、保護者が実 質送り迎えを行っている。また距離と併せ坂も急で児童には負担 も大きい。	

※「委員長意見」 7月実施した視察での意見は、小規模校では心配だという意見が多くあげられたと思う。ただ、学校視察は指導の一場面を切り取って見たのだから、これが全てではない。現場に対しての絶対的な評価にはならないが、全般的に課題があるということは認識できる。